



朝の挨拶は人と人との適切に関わるための魔法の言葉



地域の方に迎えられて

6月11日(火)から14日(金)にかけて民生委員児童委員の皆様をはじめ、関係者の方々、入善高等学校の皆さんにご協力をいただいて、「入善町さわやかあいさつ運動」を行いました。

登校した子供たちは、地域の皆さんや入善高等学校の皆さんと手と手をタッチさせながら「おはようございます」と元気のよい挨拶を交わしていました。「おはようございます」の挨拶は人と人との適切に関わるための魔法の言葉であり、一人一人が気持ちよく集団生活を送るためには欠かすことの

できない言葉の遣り取りです。「あいさつ運動」の有る無しにかかわらず、子供たちから進んで「おはようございます」と挨拶されると、言われた大人の側も「おはようございます」と気持ちよく挨拶を返すことができます。挨拶を交わす姿は何気ない朝の光景ですが、子供たちの社会性を育む上で大切にしたい教育活動の一つです。「いつでも」「誰にでも」「自分から進んで」「相手の顔を見て」「大きな声で」おはようございますの挨拶が言える子供たち、そして、心の窓を開いて、気持ちのよい挨拶を交わし合える子供たちに育ちつつあることをうれしく思っています。

今後とも、保護者の皆様をはじめ地域の皆様にご協力をお願い申し上げます。今回、「あいさつ運動」にご協力いただいた民生委員児童委員の皆様はじめ関係者の皆様、入善高等学校の皆さんに感謝申し上げます。



入善高等学校の皆さんに迎えられて

地域清掃活動を通して地域を愛する心を育む

6月20日(木)、全校で地域清掃活動に取り組みました。1・2年生は学校周辺、3年生は地下道周辺、4年生は花月公園周辺、5・6年生は祭礼後の入膳地区内を中心に清掃活動を行いました。活動内容はグループに分かれてのごみ拾いです。限られた時間内で子供たちは、公園や駐車場、道路の溝などに捨てられたごみを懸命に拾っていました。日頃、使っている学校や通学路、公園等はもちろんのこと、祭礼後の入膳地区の様子を直に目で確かめ、清掃活動を通して、自分たちが生活する地域の環境に関心を持ち、地域を愛する心を育んでいくことにつながればと願っています。



地域清掃に取り組む子供たち

キーワードは不安を取り除くための肯定的な接し方



認知症サポーター養成講座

6月24日(月)に、町保険福祉課、町地域包括支援センター、オアシス新川より4名の職員の方をお招きし、5年生の子供たちを対象に認知症サポーター養成講座を実施しました。認知症という言葉についてはほとんどの子供たちは知っていましたが、脳の病気であることや周りの人の接し方によっては、改善が期待できる病気であることを初めて知りました。この日は、認知症の方への

具体的な接し方について、ロールプレイを取り入れクイズ形式で分かりやすく説明していただきました。子供たちにとっては「肯定的な接し方」で不安を取り除くことが認知症の症状改善につながることを知るよい機会となりました。



認知症について理解を深める子供たち

「あきらめない」「図にのらない」「なまけない」の3つの「ない」を守ることが大切

7月5日(金)に、金沢大学附属病院脳神経外科教授 中田 光俊先生(本校卒業生)をお招きしてPTA講演会を開催いたしました。中田先生からは、5・6年生及び保護者を対象に『未来をになう 君たちへ』という演題でお話をしていただきました。自分の好きなことを見付け上手になる秘訣は、「あきらめない」「図にのらない」「なまけない」の3つの「ない」をしっかりと守ることであるということや人のためになることを



金沢大学附属病院教授 中田先生の講演

することが「自分がうれしくなる法則」に繋がることなど、この時期の子供たちにとって、大切なことを分かりやすく伝えていただきました。

火災を想定しての避難訓練



グラウンドに避難する子供たち

6月14日(金)に今年度初めての避難訓練を行いました。今回は、授業中、給食室からの火災が発生したという想定で避難経路をもとにグラウンドへ避難するという方法で取り組みました。

子供たちは落ち着いて緊急放送を聞き、**お**さない・**は**しらない・**し**ゃべらない・**も**どらない」の約束をしっかりと守りながら、迅速にグラウンドへ避難することができました。火災は、いつ、

どこで、起こるか分かりません。避難訓練は、子供たちの命を守るための大切な練習です。これからも万が一に備え、いざというときに正しく避難ができるように努めたいと思います。



真剣に話を聞く子供たち